

2023 年 7 月 14 日

私立大学図書館協会
加盟大学図書館長 様

私立大学図書館協会会長校
明治学院大学
館 長 助川 哲也
(公印省略)

私立大学図書館協会総会・研究大会当番校
大正大学附属図書館
館 長 稲井 達也
(公印省略)

第 84 回（2023 年度）私立大学図書館協会総会・研究大会の参加方法について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

6 月 26 日付私大図協発 第 23-52 号の開催通知でお知らせしておりました、今年度の総会・研究大会の参加方法につきまして、下記のとおりご案内申し上げます。

なお、第 84 回の総会・研究大会についてはハイブリット開催（オンラインと会場の同時開催）といたします。どうぞよろしく願いいたします。

1. 総会

<総会>

日 時：2023 年 8 月 24 日（木）12：00 ～ 8 月 31 日（木）17：00

方 法：メール会議

議 案：『総会・研究大会資料』の「総会資料」をご参照ください。

※『総会・研究大会資料』冊子は、2022 年度から廃止になりました。

資料は、8 月 23 日（水）までに、私立大学図書館協会ホームページの総会・研究大会ページに掲載します。

表 決：Web フォームから入力（URL などの詳細は、後日会長校よりご案内いたします。）

結 果：2023 年 9 月 20 日（水）（予定）にメールおよび加盟校限定ページで公開します。

2. 研究大会 テーマ

「ポスト・コロナを切り拓く大学図書館」

日 時：2023年9月1日（金）12：30～17：00

会 場：大正大学 8号館1階

参加方法：ハイブリット（オンラインと会場での同時開催）

※海外派遣研修報告は、加盟校限定ページで公開します。

プログラム：3～5ページをご参照ください。

参加申込：6ページをご参照ください。

3. お問い合わせ先 大会事務局 大正大学附属図書館（担当：古川・林）

TEL 03-5394-3028

E-MAIL jaspul2023@mail.tais.ac.jp

第84回（2023年度）私立大学図書館協会総会・研究大会
＜記念講演、講演および協会賞授賞式＞プログラム

テーマ：「ポスト・コロナを切り拓く大学図書館」

日時：2023年9月1日（金）12：30～17：00（受付12：00～）
※10：30～12：00 図書館自由見学可
※ハイブリッド開催（オンラインと会場の同時開催）

会場参加：大正大学8号館1階

オンライン参加：YouTube Live（限定公開）で配信

※当日の講演は録画し、後日加盟校限定ページにて公開予定

今日、私たちの社会は、AI社会や内閣府が提示するSociety5.0の社会像に急速に接近しつつある。コロナ禍は価値観の多様化と変革を加速させた。

現在の大学には、実社会・実生活を見通して、学生一人ひとりに、自ら課題を発見し、自ら主体的に課題を解決できるような資質・能力を育成することが求められている。これを受けて、大学図書館には、学術研究はもとより、前例にとらわれることなく新たな学修・研究支援の体制を確立することが期待されている。

コロナ禍のなかで大学図書館が積み重ねてきたさまざまな実践知を確認・共有するとともに、社会の価値観の転換にどのように対応していくべきなのか。

本大会では、大学の図書館人として、既存の価値観にとらわれることなく、ポスト・コロナを見通した「新たな大学図書館像」を探るための機会とする。

（1）開会式・オリエンテーション 12：30～12：40

開会挨拶：高橋 秀裕（大正大学 学長）
会長挨拶：助川 哲也（明治学院大学図書館 館長）

（2）記念講演 12：40～13：40

演題：「知的立国の形成と図書館への期待」
講演者：片山 善博（大正大学地域構想研究所 所長・社会共生学部 特任教授）

このところわが国では生産性の低下に象徴されるように、様々な面で国力の低下が指摘されている。それを克服するにはあらためて知的立国の形成を志さなければならない。知的立国とは、知を大切にし、技術や専門性、文化や芸術を重んじる国柄をいう。知的立国を形成する上で教育の果たす役割が重要であることは言うまでもないが、図書館も大切な役割を担っていることを忘れてはならない。ところが、世の中で図書館の大切さが必ずしも十分に認識されていない。そのことは図書館を支える人たちの処遇一つとってみてもよくわかるはずだ。この現状を打開するにはどうすればいいか。公共図書館から大学図書館までを視野に入れて、これからの図書館のあり方を考えてみたい。

(3) 協会賞授賞式 13 : 40～13 : 50

業績：『やさしい大学図書館のサバイバルイングリッシュ』の刊行
受賞者：早稲田大学図書館、早稲田大学アカデミックソリューション

(4) 休憩 13 : 50～14 : 10

(5) 講演① 14 : 10～15 : 10

演 題：「新たなケアの文化と大学図書館——孤立を超えともに学ぶ場の形成」
講演者：島 蘭 進 （大正大学地域構想研究所 客員教授）

NHK が「無縁社会」と題した特集を放送したのは 2010 年のことだったが、人々が孤立しやすく孤独に苦しみやすい社会への変化はますます進んでいる。コロナ禍はその傾向を一段と深刻化したようだ。大学の学生にとっては、友人たちとともに時を過ごすことができない時期が続き孤独感を強めたことだろう。だが、このように孤独が深まる社会だからこそ、相互にケアし合う関係が新たに求められてもいる。大きな災害があると多くの人々が支援に赴く。若い人ほど寄付に前向きだという調査結果もある。「利他」の語に関心が寄せられてもいる。このようなときに図書館がもつ意義は大きい。図書館は静かに書物を読み、孤独でいてもよい場所であるとともに、人々が多くを共有する場所である。共有資源をともに大切にすることを学ぶ場である。お互いが違いを認めながら、支え合う者どうしでもあること、そして共有できる「善きもの」があることを確認し合う。大学図書館がそのような場として機能することは、人生の途上での大きな学びの機会となることだろう。

(6) 休憩 15 : 10～15 : 30

(7) 講演② 15 : 30～16 : 30

演 題：「アクティブ・ラーナーを育てる大学図書館—高校から大学へ、大学から社会へつなぐ」
講演者：稲井 達也 （大正大学附属図書館 館長・教職支援オフィス 教授）

2001(平成 13)年の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行から 22 年、小・中学校や高校での読書活動が推進され、読書離れに一定の歯止めをかけている。また、学習指導要領の改訂に伴い、高校では教科等の探究学習を重視するようになった。高大接続の観点から、また、学生を社会に送り出す教育機関という観点から、大学図書館の学習者育成への手ごかりについて考える。特に大学図書館の読書推進については、高校までの読書指導を引き継ぎつつ、研究のための調査的な読書だけではなく、学生の一人ひとりが読書によって教養を深めたり視野を広げたりしながら、生涯にわたって自ら学び続ける主体、アクティブ・ラーナーを育てていくことは、大学図書館の役割の一つである。専門とする初等中等教育の現況を踏まえつつ、大学図書館における学習・読書環境のデザインに焦点を当てる。

(8) 事例報告

16 : 30～16 : 50

演 題 : 「「学び」と「集い」の図書館に挑む」

講演者 : 稲井 達也 (大正大学附属図書館 館長・教職支援オフィス 教授)

大正大学附属図書館 職員

大正大学附属図書館は、新たに 2020 年に開館して以降、理念をもって様々な取組を進めてきた。その代表的な取組である「学びのコミュニティ」「としま文化の日」について報告する。「学びのコミュニティ」は独自の講座であり、学領域にとらわれない学びを提供している。また、豊島区立図書館と協同開催した「としま文化の日」は、公共図書館と繋がり、地域住民と交流する貴重な機会となった。大正大学附属図書館の目指す姿として、これらを発展・継続することが、「学び」と「集い」の場の実現になるものと考え、事例報告をおこなう。

(9) 閉会式

16 : 50～17 : 00

次期当番校挨拶 櫻井 陽子 (駒澤大学図書館 館長)

閉会挨拶 稲井 達也 (大正大学附属図書館 館長)